

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

Chance, Challenge そして Creation

草間 朋子

後援：一般社団法人 日本NP教育大学院協議会 会長



第7回日本NP学会学術集会の開催おめでとうございます。

「診療看護師(NP)の真価を問い、新たな価値を創造する」のテーマに寄せる、本田大会長と大会関係者のみなさまの情熱そして先見性が伝わってまいります。

2008年に、診療看護師(NP)の養成教育が開始され、2011年に初めての診療看護師(NP)の資格認定者が社会に巣立って10年余りが経ち、その間に約600名の診療看護師(NP)のみなさんが誕生しております。診療看護師(NP)としての活動の足跡を辿り、真価を問い、新たな価値について、学術集会の場で、話し合い、議論し合う姿を思い描きながら、「10年以上経った」との実感が込みあげ、感無量です。学術集会の大会長の責を、昨年の黒澤大会長に引き続き、診療看護師(NP)でおられる本田会長が担うことにも、時の流れをしみじみと感じ、感慨深い気持ちで一杯です。今回の学術集会が、診療看護師(NP)の未来の姿に力強い一石を投じる素晴らしい学術集会になるものと信じております。

多くの医療スタッフや、国民、患者さんからの診療看護師(NP)に対する価値判断・評価が、新たな価値を創造する基盤となります。今まさに、多くの方々から寄せられる忌憚のない意見や批判にしっかり耳を傾け、診療看護師(NP)のみなさんが主体的に、自らの力・手で、時代・社会のニーズに対応した「診療看護師(NP)の価値」の創造にチャレンジする時期を迎えております。幸い、日本NP学会は、多くの職種のみなさまが真の会員(診療看護師(NP)を自分事として捉えてくださっている会員)となつて学会を支えてくださっておりますので、コラボレーションを大切に、「診療看護師(NP)の価値」についての議論の輪を広げていくことを期待しております。

日本NP教育大学院協議会(JONPF)の大きな課題は、診療看護師(NP)のみなさんの力を効果的・効率的に存分に発揮できるように、一刻も早く診療看護師(NP)の「法制化」を実現することです。政策決定の場では、常に、診療看護師(NP)の活動実績に関するエビデンス、エピソード(EBPM: Evidence-Based Policy Making)が求められます。学術集会や学会誌を通して、「つくられ」「つたえられた」エビデンス、エピソードが、世間のさまざまな雑音を払拭し、社会を動かし、法制化を促進していくことに直結するものと信じています。診療看護師(NP)のみなさんの真摯な活動が、JONPFの活動の支えです。みなさんの活躍を土台に、「焦らず」「諦めず」、根気よく法制化に向けた活動を続けてまいります。

診療看護師(NP)は、日本の医療保健福祉を支える「チーム医療のキーパーソン」、「地域・在宅医療のゲートキーパー」であるというJONPFの命題は、当初から一步もぶれておりません。「謙虚」「自律」「誠実」な姿勢を忘れずに、患者さん、チーム医療のスタッフのみなさまから信頼される診療看護師(NP)を目指してください。

実り多い学術集会であることを心から祈念しております。

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

西村 伊知恵

後援：公益社団法人 長崎県看護協会 会長



今年度、西洋医学の発祥の地長崎で、第7回日本NP学会学術集会が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

長崎県は離島が多く存在しており、離島や僻地を含めて地域医療をどのように整えるかは重要な課題となっています。長崎県内の高齢化率は32.75%（令和3年1月1日現在）と全国平均を上回り、特に離島における高齢化率は40%を超えています。住み慣れた地域で生き続けたいと願っている人びとの暮らしはその地にあります。このような離島住民の願いを可能にするためには、診療看護師（NP）は大事な人的資源です。医師が少ない地域だけではなく、患者に寄り添いながら、医学的な視点と看護の視点をもって、その人に必要なケアの提供につなぐ診療看護師（NP）の存在はこれからの社会にとって非常に重要なものと受けとめています。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの生活を一変させ、新しい生活様式が求められるようになりました。医療従事者においては、その責務を果たすべく、これまでの2年間、感染症と向き合う生活を続けているところです。一方、ワクチン接種が進み、治療薬の開発・承認等の明るい兆しも見え始めてまいりました。喫緊の課題として、新型コロナワクチン・ウイルス感染症の医療提供体制強化に向け、法改正も検討されているとのことですが、この最前線においても、診療看護師（NP）の皆様の役割発揮を伝える声が届いております。改めて敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

本会のテーマ『Collaboration 診療看護師（NP）の真価を問い、新たな価値を創造する』に沿って準備されたプログラムの先に、より高度な実践家としての皆様方が結集し、この第7回の本会でたくさんの議論が繰り広げられるであろう3日間が想像できます。更なる価値の創造へと発展していくことでしょう。

日本看護協会の令和4年度の重点政策の一つに「看護職の役割拡大の推進と人材育成」があります。「ナース・プラクティショナー（仮称）制度の構築」もそのなかの事業となっています。長崎県看護協会も、少子高齢化を支えるもの、看護職の役割の拡大、タスクシフトなど関連するものへの取り組みなど日本看護協会と連携して行動していきたいと思っております。

ご参加の皆様方のご健勝とご活躍を期待し、第7回日本NP学会学術集会が盛会でありますことを祈念しております。

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

山西 文子

後援：東京医療保健大学
東が丘看護学部看護学科 副学長・看護学部長
看護学研究科高度実践看護学コース担当教授



「第7回日本NP学会学術集会」開催御目出とうございます。本大学院3期生本田和也さんが初めて大会長の役割をお引き受け頂きコロナ禍にも拘りませず、一生懸命に診療看護師(NP)のことを考え必死で対応されてこれられました事心から感謝とお喜び申し上げます。本当に御目出とうございます。

東京医療保健大学が大学院でクリティカル領域NPの教育課程をオープンしましたのが2010年4月からでした。まだ海のものとも山のものとも言えない状況の下、勇気ある決断の船出を致しました。文部科学省や厚生労働省への申請に時間を費やし、保健師助産師看護師法改正制度に基づいた教育課程となっています。この春丁度10期生の修了生を輩出致し、修了生は183名が育っております。しかも開拓心旺盛で、パイオニアとして頼もしい方が多く、日本各地の施設でご活躍され、とてもNPとしての成果を出して頂いております。コロナ禍でその結果が大変喜ばれているケースが多く、本学の教育課程で学んだことに誇りを持っていただいているのを実感しています。

皆様の影響も大いにありまして、最近の本大学院に対する関心度をみましても、年々受験者は増えており、年間2回の試験日を設けておりますが、3倍以上の方が来訪されています。制度が出来るまでは、従来の体制を大きく変えずに教育していきたいと考えております。しかし、自律の観点からは修了生の中からモデルとなるようなNPが教育を自らの手で実践可能になるように出来ることを願って勧めております。

大学の役割は教育、研究、社会貢献と言われております。そのため大学においては、大学院を含めて計画・実践した教育の評価が大切でPlan・Do・Seeが廻っていること、修了生の動向まで追及されています。2017年に大学基準協会の「認証評価」を受審し、最先端の教育を実践していることを高評価されています。また、研究面では多方面に亘り学会を賑わせ、本NP学会は既に7回を迎え、本学の修了生が初めて大会長として選ばれました事、本当に嬉しく思います。所属施設や地域の期待に応えてNPとして優れた実践を積み、研究活動まで地道に努力されていますので当然の事と存じます。コロナ禍で対面開催スタイルが取れないのはとても残念ですが、このような状況下での工夫された学会を開催しようとしていることも伝わってきますので益々期待と関心が高まっております。

本学会の盛会を心からお祈り致しております。

第7回日本 NP 学会学術集会 祝辞

松本 晴樹

後援：新潟県 新潟県福祉保健部長



第7回日本 NP 学会学術集会に寄せて一言お祝いを申し上げます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症への対応について、日々、御尽力いただいていることに対し、深く敬意と感謝の意を表します。

我が国において、専門性の高い看護師の育成等が提言されてから 30 年余りが経過し、その間、看護師の皆様が活躍の場を広げ、着々と成果を上げておられることは、社会や医療現場からの期待の表れであると考えております。

地域医療の現場は、持続可能な医療提供体制の推進に向けて大きく動き出しており、その中で看護師が果たす役割は、看護師の新たな活躍の場を切り拓くとともに、地域医療にさらなる貢献をいただけるものであると大きな期待を寄せています。

末筆となりましたが、本学術集会のご成功とご参加の皆様の今後益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

謝辞

謝辞

第7回日本NP学会学術集会開催にあたり、下記の団体・企業、学術団体よりご後援、ご協賛、ご支援いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。引き続き、日本NP学会へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

【後援】

長崎県
新潟県
長崎県病院企業団
公益社団法人 日本看護協会
公益社団法人 長崎県看護協会
一般社団法人 日本NP教育大学院協議会
一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会
学校法人青葉学園 東京医療保健大学
学校法人活水学院 活水女子大学看護学部



【協賛】(五十音順)

(株)アーチーズ
愛知医科大学大学院看護学研究科
旭化成ファーマ(株)
アボットジャパン合同会社
医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院
医療法人横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第1病院
NPO医学中央雑誌刊行会
(株)学研メディカルサポート
学校法人青葉学園 東京医療保健大学
(株)キシヤ
(株)共和
(株)クリニコ
コヴィディエンジャパン(株)
公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院
(株)じほう
テルモ(株)
ドレーゲルジャパン(株)
ながさき地域医療人材支援センター

長崎県病院企業団
ニプロ(株)
日本コヴィディエン(株)
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
NEW NURSING(株)
ネスレ日本(株)
P&Gジャパン合同会社
フクダ電子西部北販売(株)
富士フィルムメディカル(株)
ブリストルマイヤーズスクイブ(株)
(株)マイナビ
山下医科器械(株)
(株)レジーナ
ロシュDCジャパン(株)

謝辞

第7回日本NP学会学術集会開催にあたり、下記の団体・企業、学術団体よりご後援、ご協賛、ご支援いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。引き続き、日本NP学会へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

【支援（寄付）】（五十音順）

アイティーアイ(株)

(株)イシマル

一般社団法人 大村市医師会

医療法人萌愛会 長崎セント・ノーヴァ病院

(株)ウイン・インターナショナル

公益社団法人 長崎県看護協会

社会医療法人財団 白十字会 佐世保中央病院

長崎県病院企業団 長崎県壱岐病院

長崎県病院企業団 長崎県五島中央病院

長崎県病院企業団 長崎県島原病院

長崎県病院企業団 長崎県対馬病院

長崎市医師会看護専門学校

*その他：匿名（個人・企業）12口



【学会準備金支援】（五十音順）

国立病院機構 長崎医療センター

日本NP学会

【学術集会相互バナー連携】（開催歴順）

一般社団法人日本看護学教育学会第31回学術集会（会長 池松 裕子）

第25回日本看護管理学会学術集会（学術集会長 叶谷 由佳）

第18回日本循環器看護学会学術集会（会長 前田 靖子）

第17回日本クリティカルケア看護学会学術集会（集会長 藤野 智子）

日本ルーラルナーシング学会第16回学術集会（学術集会長 中村美鈴）

第8回日本CNS看護学会（大会長 鹿内あずさ・山田 雅子）

【開催・運営支援】（五十音順）

(株)アーチーズ

一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会

(株)ファイブタッグプラス

謝辞 JSNP2021 - Collaboration Movie（応援動画）

本会では、COVID-19 の感染流行の影響を懸念し、参加者の安全担保、これ以上の医療従事者疲弊/病床逼迫回避に配慮し、2021 年 9 月 10 日に開催方法を「現地開催主体のハイブリット開催」から「Web のみ」へ変更することといたしました。苦渋の判断ではございましたが、Web 開催でも、会員並びに参加者の皆様とともに診療看護師(NP)の未来につながるための「Collaboration」を実現できたらと思い、前向きに準備を進めてまいりました。

Web 開催でも「Collaboration」するためには、日頃から診療看護師(NP)の未来に向けてご支援いただいている関係者（会員ならびに本会参加者含む）の皆様からの「メッセージ（声）と動画（表情）」を形にすることが良い方法だと考えました。本趣旨を説明した上で、2021 年 9 月 10 日～10 月 4 日の期間で応援動画を公募しましたところ、国内外問わずご賛同をいただいた「100 名以上の方から、87 動画」のご協力をいただくことができました。多くの方々からいただいた応援メッセージ動画を「Collaboration Movie（短編動画）」として編集し、公式 YouTube にて公開中です（会期中で公開は終了する予定です）

多くの関係者、支援者の皆様からの思いは、会員のみならず、多くの方々との「Collaboration」へと繋がったと思います。ここに厚く御礼申し上げます。

【JSNP2021 - Collaboration Movie（応援動画）協力者一覧】（敬称略）



CAROLE KENNER

Founder and CEO of the Council of International Neonatal Nurses
Dean of Nursing at the College of New Jersey.



KATHY WHEELER, PhD, RN, APRN, NP-C, FNP-BC, FNAP, FAANP

Professor, University of Kentucky College of Nursing, Lexington, Kentucky
Co-Chair, ICN NP/APN Network Health Policy Subgroup



エクランド 源 稚子 Dr. Wakako M. Eklund DNP APRN NNP-BC

Neonatal Nurse Practitioner, Pediatric Medical Group of TN. Nashville, TN.
Affiliate Associate Professor of School of Nursing, Northeastern University, Boston MA, USA.

【JSNP2021 - Collaboration Movie（応援動画）協力者一覧】（敬称略・順不同）

- ・ 長崎市長 田上 富久
- ・ 日本 NP 学会 理事長 福永ヒトミ
- ・ 一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会 会長 草間 朋子
- ・ 大分県立看護科学大学 理事長・学長/日本 NP 学会監事/日本 NP 教育大学院協議会 副会長 村嶋 幸代
- ・ 長崎国際コンベンション協会 地域開発・事業推進部 部長 古賀 典明
- ・ 一般社団法人日本看護学教育学会第 31 回学術集会 会長 池松 裕子
- ・ 第 18 回日本循環器看護学会学術集会 会長 前田 靖子
- ・ 第 17 回日本クリティカルケア看護学会学術集会 集会長 藤野 智子
- ・ 日本ルーラルナース学会第 16 回学術集会 学術集会長 中村 美鈴
- ・ 第 8 回日本 CNS 看護学会 大会長 鹿内あずさ・山田 雅子
- ・ 長崎医療センター（院長 江崎 宏典、看護部長 西山ゆかり、副院長 八橋弘、統括診療部長 吉田真一郎、高度救命救急センター長 中道 親昭、脳神経外科・神経内科スタッフ一同、前副看護部長 天野由美、認定看護師 松田陽平）
- ・ 宮崎大学 医学部 看護学科 地域・精神看護学講座 精神看護学分野 教授 原田奈穂子
- ・ 宮崎大学 医学部 医学科 助教 香田 将英
- ・ 長崎大学病院 看護部長・副看護部長・看護師長 一同
- ・ 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 講師 浦中圭一
- ・ 東京医療保健大学東が丘看護学部 事務部一同
- ・ 愛知医科大学大学院 臨床実践看護学領域 診療看護師(NP)コース 教員・学生一同
- ・ 石川県立看護大学 看護専門領域 基礎看護学講座 基礎看護学 准教授 石川 倫子
- ・ 緒方さやか NP, USA
- ・ 日本 APN 後援会 会長 / FNP, Canada 野々内 美加
- ・ 實取 直子 NP, USA
- ・ 森本 彩沙 NP, USA
- ・ Acute Post Acute Care(APAC) / Hospital In The Home(HITH) in Australia, 急性期訪問看護師 本田 一馬
- ・ 安達健一（看護師）、小池 輝（看護師）
- ・ (株) デザインケア みんなのかかりつけ訪問看護ステーション 代表取締役 看護師 藤野泰平
- ・ ケアプロ (株) / (株) エイチ・ユウ・ジー 代表取締役社長 川添 高志
- ・ 長崎県病院企業団 長崎県上五島病院 看護部長、医師、スタッフ一同
- ・ 国立病院機構 東京医療センター 医師 尾藤 誠司、鈴木 亮
- ・ 国立病院機構 嬉野医療センター 診療看護師(NP)一同
- ・ 国立病院機構 大阪医療センター 診療看護師(NP)一同
- ・ 国立病院機構 災害医療センター 診療看護師(NP)一同
- ・ 国立病院機構 川棚医療センター 診療看護師(NP) 川尻 一弥
- ・ 聖マリアンナ医科大学病院 診療看護師(NP)一同
- ・ 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 診療看護師(NP)一同
- ・ やまと在宅診療所 診療看護師(NP) 田平 絵里、スタッフ一同
- ・ 大分県立看護科学大学 NP 教育・事業推進チーム一同
- ・ 東京ベイ・浦安市川医療センター 診療看護師(NP) 一同（代表：広田 遼一）
- ・ 東京医療保健大学大学院看護学研究科 NP コース(M1, M2)の皆様
- ・ 関東中央病院 ICU/救急外来 副看護部長・急性・重症患者看護専門看護師(CNS) 齋藤 大輔
- ・ 愛知医科大学病院 診療看護師(NP) 森 一直
- ・ 東京医療保健大学大学院 講師 忠 雅之
- ・ ゆみのハートクリニック 診療看護師(NP) 橋 朋絵
- ・ 聖隷三方原病院/東北文化学園大学大学院 ナースプラクティショナー(NP)養成分野 有賀 崇博
- ・ 公益財団法人 日本心臓血管研究振興会附属 榊原記念病院 診療看護師(NP) 関口 奈津子
- ・ コミュニティーホスピタル甲賀病院 診療看護師(NP) 中澤 健二
- ・ 第 9 回日本 NP 学会学術集会会長(2023 年度) 診療看護師(NP) 樋口 秋緒
- ・ 秋田大学大学院 NP コース 学生の皆様
- ・ 鹿児島大学病院 看護師特定行為研修センター主任 福元 幸志
- ・ 久留米大学医療センター 総合診療科診療科長 准教授 向原 圭
- ・ 横浜市立大学大学院医学群大学院データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻 講師 金子 惇
- ・ 鹿児島県立大島病院 産婦人科 医師 小徳 羅漢
- ・ 長崎県壱岐病院 診療看護師(NP) 庄山由美
- ・ 医療法人横浜未来ヘルスケアシステム 戸塚共立第 1 病院 ICU スタッフ一同
- ・ JCHO 東京城東病院 診療看護師(NP) 福添 恵寿
- ・ NTT 東日本札幌病院 診療部 主任看護師 岡村 英明
- ・ 東京はくと医療生活協同組合 生協浮間診療所 日本医療福祉生協連合会 家庭医療学開発センター 診療看護師(NP) 後藤 智美
- ・ 特定医療法人社団春日会 黒木記念病院 教育部長 原 光明
- ・ 診療看護師(NP) 筑濱 浩子

講演集

会長講演

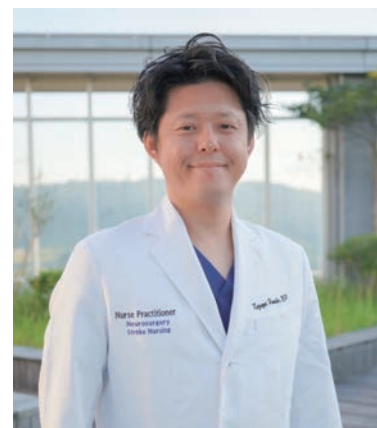
"Collaboration"が診療看護師 (NP) の未来を築く - Collaboration is the key to create the future of NPs -

本田 和也 *Kazuya Honda*

第7回日本NP学会学術集会 会長

日本NP学会 理事

国立病院機構 長崎医療センター 脳神経外科 診療看護師 (NP)



“Collaboration (コラボレーション)”という言葉は「コラボ」とも略され、「共同」「協働」「協力」「連携」等様々な意味を持つ用語として、ビジネス業界・エンターテインメント業界等で幅広く活用されている。ヘルスケア領域においてもしばしば用いられ、「チーム医療」や「地域包括ケアシステム」の推進・「働き方改革」など、昨今の医療を取り巻く諸課題を解決するミッションの遂行において、不可欠な要素 (key word) となっている。

私はこれまで種々の医療現場において、①患者ケアのコーディネーターならびに ②医療チーム間のコーディネーターを行う診療看護師 (NP) として、医師・病棟看護師・コメディカル・患者/家族との間のコラボレーションを主導する経験を得てきた。診療看護師 (NP) が中心となる多職種間のコラボレーションは、「患者が抱える複雑な課題」を解決するための情報伝達を円滑化し、多角的なアプローチの迅速化を可能とする。医療現場における“チームビルディング”という観点からも、「診療・看護業務の円滑化や過剰負荷の軽減」、「チームのモチベーション向上」など優れた効果を実感することが多い。医療現場での活動のみならず、臨床研究も含めて、患者や医療を取り巻く様々な課題の解決へ向けた効果的なコラボレーションの経験は、診療看護師 (NP) の活動フィールドにおける役割を確立させてきた。医療・看護など診療/ケアの継続的な質改善や組織全体のパフォーマンスを向上させるという効果も経験する。適切な“コラボレーション能力”は、診療看護師 (NP) として身につけておきたいコンピテンシーの一つである。

一方、診療看護師 (NP) の「いま」を俯瞰して見たとき、そのアイデンティティや社会的立場の確立を意識しすぎるが故に、様々な場面において見え隠れする“セクショナリズム”を感じるのも事実である。診療看護師 (NP) が社会に必要とされ広く認められる存在となるためには、このセクショナリズム的な感覚をできるだけ無くし、診療看護師 (NP) という職種の素晴らしい本質 (真価) を、素直な気持ちで相手に見極めていただくことも必要だろう。経験上、多職種間でコラボレーションを図ることは容易ではないと思うが、相手の専門知識や技能、人間性も含め尊敬し、「謙虚でかつ誠実な」気持ちと姿勢で協働しつつ、未来を見据えてともに歩んで行くことを一人の診療看護師 (NP) として願う次第である。